

原著及實驗

內臟轉錯症ノ三例

金澤醫學專門學校第二内科教室

金澤醫學士 近藤清吾(醫學卒業)

余ハ最近內臟轉錯症ノ三例ヲ實驗シタルヲ以テ茲ニ報告セントス、余ハ只臨床的ニ之ヲ診斷シ得タルノミニシテ病理解剖的ニ精檢シタルモノニアラザレバ內臟轉錯症ノ病理ニ對シテ何等新ナル知見ヲ提供スルコト能ハザルモ只夫文献ノ脱漏ニ資セント欲スルノミ。

內臟轉錯症ハ甚ダシク稀有ナルモノニハアラズ、然モ余ハ明治四十三年ヨリ大正四年ニ至ル迄我が「クリニク」ニ於テ一名ヲモ實驗セズ、本年ニ入りテ殆ド連續的ニ三

例ヲ得タリ、而シテ我が國ノ文献ニ徵スルニ明治二十八年ヨリ大正二年ニ至ル約二十ヶ年ニ於テ漸ク五十餘例ヲ算スルニ過ギザルモ去リテ獨逸醫學雜誌ヲ一覽スルニ其報告例甚ダ多數ナルガ如シ。

內臟轉錯症ハ一種ノ畸形トモ見做スベキモノニシテ之ニ完全內臟轉錯症 *Situs inversus totalis* ト一部の內臟轉錯症 *Situs inversus partialis* ノ二種アリ、而シテ右心症ハ臨床的ニモ容易ニ診斷セラルベシト雖モ心臟ガ正常ノ位置ニアリテ腹部內臟ノミノ轉錯セル場合ニハ特種ノ場合ノ外看過セラル、コトモ多カルベシ、余ノ第一及第二例ハ心臟及肝臟ノ轉錯セルヲ證明シ第三例ハ腹部內臟ノミノ轉錯症ヲ示セリ、リゼル氏 *Riesel* ハ甚ダ多數ノ腹部內臟轉錯症ヲ蒐集シテ之ヲ評論セリ、(*Zentralbl. f. allg. med. Path. und path. Anat. Bd. 20. No. 15-16, 1909.*) 內臟轉錯症ノ原因ニ關シテハ諸說紛々トシテ統一ヲ欠キ憶說ニ加フルニ憶說ヲ以テスルノ觀アリ、又實際ニ於テモ其

眞因ハ單一ナルモノニハアラザルベシ、然モ諸家ノ説ヲ總括セバ次ギノ二原因ニ歸シ得ベキガ如シ、其一ハ或ル主ナル臟器ガ胎兒發育ノ最モ初期ニ於テ其位置ヲ轉倒シ引イテ全臟器ノ轉錯ヲ惹起ス其二ハ內臟轉錯ハ雙畸形兒ニ成立ス、諸學者ノ説ノ詳細ハ屢々先輩ノ記述セル所ナルヲ以テ余ハ此處ニ之ヲ省略シ、直ニ余ノ實驗例ヲ掲グベシ。

第一例

白〇與〇〇 男 四十一歲 酒屋(初診大正五年五月六日)

既往病歴 生來健全、二三年前痔疾ニ罹リシコトアリ
二十歲頃横痃、遺傳的關係ナシ。

現病歴 先月十日頃ヨリ輕度ノ咳嗽盜汗兩側上腹殊ニ右側ノ上腹部ニ鈍痛アリ、空腹時ニハ稍著シキガ如シ、而シテ漸次羸瘦ス、四月廿四日蛔虫ヲ吐出セルコトアリ。惡寒發熱ヲ自覺セズ、血行器障得ヲ訴ヘズ、食慾正常、便通一日二行軟便、尿利一日五六回、嗜好品酒及煙草共ニ好ム。

現症 全身狀態、体格營養共ニ不良纖長、胸腹部所見、

心尖搏動ハ右第五肋間乳線ノ內方約一橫指ノ所ニアリ左右ノ位置ヲ變ズルノミニテ大サ及ビ心音ニ異常ナシ、但シ心悸亢進、脈搏ハ微弱頻數ナリ、聽診上右肩胛下部ニ摩擦音ヲ聽取ス、其他著變ナシ、肝臟ハ左側ニアリテ左乳線ニ於テ第六肋間以下濁音、中腋窩線ニテ第八肋間以下濁音ナリ、肥大壓痛等ナシ從ツテ右側ニ於テハ肝臟濁音部ヲ證明セズ、其他腹部ニ於テ特記スベキモノナシ。

× 光線検査 注腸試驗等ヲ欠ケルヲ以テ胃及直腸等ノ位置ヲ知悉シ能ハザリキ、胃ノ内容検査ヲ一回行ヘルモ採取不能ニ終レリ。

以上ノ外血行器障得及他部ノ畸形ヲ證明セズ。

臨床の診斷 胸腹部內臟轉錯症、右肋膜炎及胃酸過多症及蛔虫。

第二例

福〇常〇〇 男 六十五歲 商(初診大正五年六月六日)

該患者ハ主トシテ胃症ヲ訴ヘテ來診セリ。
遺傳的關係ナシ。

既往病歴 生來健ナラズ、感冒ニ罹リ易シ七年前腦神

經症ニ罹ル。

現病歴 十二三年前ヨリ食後上腹部ノ鈍痛停滯膨滿、便秘、食慾不振、運動後ニ稍呼吸困難ヲ感ズルコトアリ。

現症 体格營養共ニ中等、心臟ハ右側ニアリ肝臓ハ左側ニアリ、其他ノ關係ハ全ク第一例ト同ジ、上腹部ニ振水音アリ、胃ノ内容検査(長與博士ノ試驗朝食)ノ結果ハ游離鹽酸零、粘液中等、「パン」ノ残渣一五〇。

臨床の診斷 胸腹内臟位置轉錯症、慢性胃加答兒及胃腸弛緩症。

第三例

大〇フ〇 女 三十七歲 飲食店(初診大正五年七月十九日)

遺傳的關係 母ハ腹水病ニテ死シ父ハ健在兄弟四人中一人呼吸疾患ニテ死ス。

既往病歴 生來健ナラズ、三四年前現症ト殆ド同様ナル症候アリ約三十日位ニシテ輕快ス、花柳病ナシ。

現病歴 昨年八月頃ヨリ、上腹部充滿停滯、食後ノ鈍痛及嘔噦、時々、中下腹部雷鳴、惡心、心悸亢進、頭痛、下腿浮腫、歩行ノ不自由等アリテ諸症消長ス。

現症 全身狀態、体格營養正常、皮膚褐色。

胸腹部所見 心臟ハ左側ニアリテ心尖搏動ハ第五肋間乳線外一横指ノ部ニアリ、心音一般ニ不能、時々結代ス、脈搏稍硬ナルモ血壓ハ一一五毫米(リ、パロツチ氏)腹部一般ニ稍膨滿スルモ腹水ナシ、上腹部ヲ觸診スルニ左季肋下ニ實質性ノ稍大ナル肝臓形ノ腫瘤ヲ觸知シ輕度ノ壓痛アリ、初メ脾臓ト思惟セルモ精査ノ結果共形狀ノ示ス如ク肝臓ノ轉錯ナルコトヲ知レリ、其上界ハ左右ノ差アルノミナルモ下界ハ腫大シテ左副胸骨線ニテ弓下七・五仙迷、乳線ニテ弓下四・〇仙迷ヲ示ス、尙ホ肝臓ハ初メ心窩ノ大部分ヲ滿セルモ強心藥試用後一日ニシテ心窩部ノ腫脹ノ大部分ハ縮小セルヲ見タリ、右側ニハ肝臓濁音部ヲ欠ク。

X光線及注腸検査 X光線検査ニヨリ左胸部ノ正常ナル位置ニ稍肥大セル心臟ヲ認メ其下方ニ觸診ト一致セル肝臓ノ陰翳アリ、硫酸バリウム「粥食後正中線ヨリ稍右方ニ當リ殆ド垂直ニ胃下垂症兼胃弛緩症ニ見ルガ如キ明カナル陰翳ヲ認メタリ、尙冷水約五百立仙迷ヲ肛門ヨリ注腸セルニ始メ右ノ腸骨窩ニ冷感ヲ覺エタリ、仍ツテS

字狀部ノ右方ニアルヲ推定セシム、脾臟ノ轉錯ヲ思ハシムベキ右季肋部ノ濁音ハ鼓腸ノ爲メ明カナラズ。

其他ノ所見 下腿輕度ノ浮胞、腱反射著明ニ亢進ス、「ワツセルマン」反應陰性、尿及糞便ニ病の所見ナシ。

臨床の診斷 腹部內臟轉錯症、先天性心臟異常?、鬱血肝、胃下垂及ビ弛緩症。

以上記載セル余ノ實驗並ニ諸家ノ報告例ニヨレバ他ニ合併症ナキ內臟轉錯症ハ生活ニ對シテ著明ナル障礙ヲ起サザルガ如シ、合併症中殊ニ血行器ノ畸形ヲ有スルモノ、如キハ比較的長生シ得ザルハ理ノ當然トスル所ナリ。

追加 金澤病院醫事集談會ニテ該報告ヲナセルトキ土肥博士ハ心臟及肝臟ノ轉錯アル一症例(皮膚科外來)ヲ追加セラレ、加藤慶三氏ハ小學兒童身體檢査ノ際右心症一例ヲ發見セラレタリト云フ。

余ハ左ニ同好ノ士ノ參考ニモト明治廿八年ヨリ大正二年ニ至ル我が國ノ文獻ヲ記載スルコト、セリ。

- 一、赤沼 信吉 內臟位置變錯症ノ二例 (醫事新聞四六七ノ一三)
- 二、雨森 一郎 內臟位置變常ノ二例 (醫事新誌三五ノ三〇三)
- 三、佐藤 豊 內臟位置變常ノ一奇症實驗 (醫事新聞四六五ノ一〇、

順天二二七ノ四)

- 四、戸田 孝作 內臟轉位ノ一例 (東京醫事新誌一〇四七ノ二四)
- 五、桑波田嘉吉 上臍粘液肉腫及內臟轉錯ノ一例 (成醫會月報三〇二ノ六)
- 六、伊東 祐彦 疫痢(兼內臟變位)ノ解剖記事 (東京醫學會雜誌一三ノ二三ノ三四)

一八)

- 七、河合 清 臟位轉錯ノ一例 (中央醫學會雜誌三二ノ二二、三二)
- 八、穴戶 俊治 臟位轉錯ノ一例 附左右利ノ原因 (同上四六〇ノ五、四六五ノ一六)

九、長與 彌吉 內臟轉錯ノ二例 (男腸一ノ三ノ一一三)

一、堤 長二郎 右心症ノ一例 (濟生八五ノ四六)

一、竹崎 季薰 內臟轉位 (同 一〇七ノ九〇二)

一、岩村安太郎 疑テ挾テ右心症ノ一例ヲ記ス (順天、三四七ノ六八)

一、山浦 貞三 內臟位置變常症實驗 (醫事新聞六二六ノ三九)

一、山浦 貞三 內臟轉錯ノ實驗 (東京醫事新誌一二九四ノ一六)

一、五、穴戶 俊治 再ビ內臟轉錯者ノ統計ヲ學ケテ左利ノ原因ニ論及ス (好生、一〇ノ二七三、醫事新聞六四三ノ一)

一、六、弘田 長 右心症 (兒科雜誌四八ノ一)

一、七、池田 邦修 右心症ニ大動脈辨石全閉鎖ヲ兼ネタル一例 (醫事新聞六六八ノ二四)

一、八、市川爲次郎 稀有ナル內臟變位 (治療新報三三ノ一二三七)

一、九、杉田 源吉 內臟轉錯ノ「デモンストラチオン」 (中央醫學會雜誌六

一ノ七五)

二〇、黒田 春吉 内臟轉位ノ一例 (北越醫學會雜誌一四五ノ一四)

二一、市川爲二郎 稀有ナル内臟變化(左右轉位) 附討論 (兒科雜誌五八ノ附ノ三二)

二二、杉田 源吉 臟位轉錯ノ一例 (醫事新誌一三九四ノ二五)

二三、石丸 明義 内臟側位置轉錯ニ就テ (成醫會月報二八九ノ三)

二四、讚井源次郎 内臟轉錯症ノ一例 (兒科雜誌一〇一ノ三五)

二五、三輪信太郎、宇都野研 先天性心臟畸形附内臟顛倒位置 (兒科雜誌一〇一ノ二) (明治四十一年)

二六、前島 淳一 全内臟側位轉錯ノ一例 (東京醫事新誌一五六二ノ一)

二七、三輪信太郎、宇都野研 内臟顛倒位置 (東京醫學會雜誌二二ノ二) (二五八)

二八、酒井 幹夫 内臟轉錯ノ臨床の一實驗 (兒科雜誌一〇二ノ一二)

二九、福士 政一 珍奇ナル先天性心臟畸形ノ數例及内臟轉錯症ノ一例 (東京醫學會雜誌二二ノ一五) (明治四十二年)

三〇、第九師團軍醫分團研究會 内臟轉錯ノ一例 (軍團四ノ四五八)

三一、山本 勉彌 内臟轉錯ノ二例及統計 (福岡醫科大學雜誌三ノ二ノ六) (明治四十三年)

三二、堀井 祐 内臟轉錯症ニ就テ (中外醫事新報七二ノ四五五)

三三、森 文男 内臟轉錯症ノ一例 (東京醫事新誌一六九七ノ一)

三四、佐伯與太郎 内臟轉錯症ノ臨床的實驗 (山田病院院友會雜誌二ノ七)

三)

三五、進士 横郎 内臟轉錯症ノ一例 (成醫會月報三四一ノ二六)

三六、福士 政一 内臟轉錯症ノ一例 (醫學中央雜誌八五ノ二七)

三七、三輪信太郎、瀧原五郎 右胸心ノ二例 (兒科雜誌一一七ノ一、一一八ノ一)

三八、翁 端春 心臟左在症ノ一例 (臺灣醫學會雜誌九七ノ一三九六)

三九、堀内 潔 完全内臟轉錯症ノ一例 (醫學中央雜誌一二〇ノ一) (明治四十四年)

四〇、石橋 四郎 内臟轉錯症ノ一例ニ就テ (十全會雜誌六八ノ一)

四一、秋葉 豊吉 内臟錯位症(右胸心)ノ一例 (軍團二一ノ九〇)

四二、渡邊 正雄 内臟轉錯症ノ一例 (東北醫學會會報) (大正二年)

四三、村山 巖 完全内臟轉錯臨床的診定ノ一例 (研瑤會雜誌一一三ノ三四)

四四、木村茂太郎 内臟轉位ノ臨床の一實驗 (北越醫學會雜誌一九二ノ一) (九〇)

四五、稻田龍吉、石原誠 内臟轉錯症ノ二例 (エレクトロカルヂオグラム) 供覽 (日本內科學會雜誌一ノ五ノ二九七)

※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※